

急ぎ過ぎだよ 人類は。

ゆるやかなネットワークを目指す

ITより  
逢いてエ

# 雑報 綴文

いろいろ差えがあつたら面白い  
いろいろ人がいるのが楽しい

No. 635

2022年11月

編集・発行 鈴木厚正

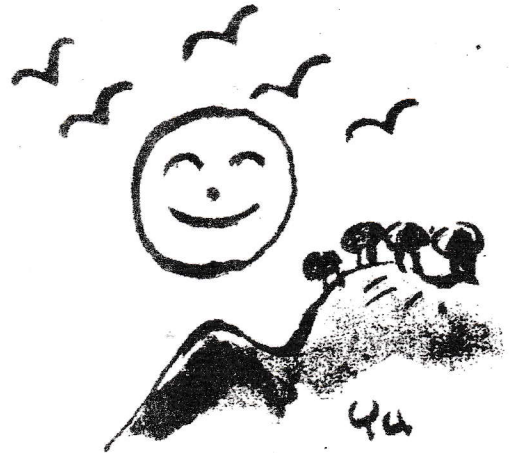
〒266-0005 千葉市緑区菅田町2-21-359

T&F 043-291-2917

も・く・じ

- 戦争にならないようにする② 2
- 「新時代沖縄の挑戦」ほか 4
- お便りから 8
- 山仕事(2月、飯田市上久堅) 14
- 群馬県境稜線トレイル 19
- 千国街道「塩の道」 22
- 為替介入では止められない 25
- け・い・じ・ぼん 26

よい季節になりました。  
世の中喧しいけれど  
平和のよさを見つけに  
出かけませんか。



(ニースつまいゆい  
など、次号へ。)

10月30日現在の  
会員数 212名

この見本誌をみて新たに

「読んでみようか」という方は、

年会費 4,000円を

郵便局で 00100-2-20630

「雑報友の会」

へ 申し込み下さい。

題 字 故 佐村隆英和尚 (千葉県長柄町本光寺住職)

カ ッ ト : 泉ゆきをさん (にっぽん箱絵の会会長)

印刷機 リソグラフ RZ 330

※この号の切手は、調停制度100周年

# 山仕事(9月、飯田市<sup>かみさかた</sup>上久堅)

あづみの

山仕事で長野県に出かけるのは数年前、山崎さんの友人の依頼で安曇野まで赤松の整理に行ってきた。

今日は、若林さんの縁で8月の山仕事に参加された加藤いつみさん(人形作家)の奥家へ、荒れ地の整理に行くことになった。

9月8日(木)、くもり。原田さんと二人、いつもの東京7:28発にのり、熱海駅に着くと、ホームの発車時刻表示が変だ。9:24富士行きの次にあるはずの9:37島田行きがなく、10:00静岡行きになっている。これは掛川11:57発の天浜線に間に合わない。そのあとは1時間後になってしまう。

それなのにアナウンスがない。ホームの駅員詰所に行くと、カーテンがあって中が見えない。ガラス戸を叩くと、駅員が顔を出した。訳をきくと、島田駅で落雷があり電気系統が故障して運休が発生したという。まもなく、ホームのアナウンスがあった。郵便局といい、人手不足はあろうが利用者への対応がよろしくない。

1本あるの電車で来た山ちゃんも三人、相談の上新幹線で掛川駅まで行くことにした。いつもの山仕事なら「1時間遅れます」で済みますが、今日は飯田市まで行かねばならない。

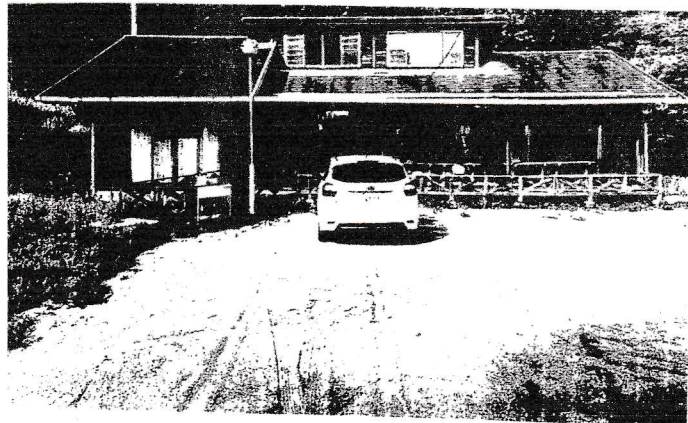
9:24富士行きにのる。新幹線は新富士駅の方が掛川に近いが、在来線の富士駅とは離れている。手前の三島駅から乗ることにした。結局、掛川には伊藤康江さんより早く着いた。康江さんが新幹線で来るまでヒマつぶし。

敷地駅で正士、久米さんに迎えられ、いつもの買物ではなく直接正士さんちへ。軽トラックに刈払い機、チェーンソー、燃料などを積み込む。

正士さんのお母さん、8月までは朝/回だけだった「バカんちっちゃった」「何していいかわかんねえが」、正士さんによると「1日100回になった」という。心配だ。

出かける時も心細かったが、正士さんの妹さんとめぐちゃんが来てくれることになっていると知ると安心。

軽ワゴンに正士、康江、久米、山崎さんが、英ちゃん運転の軽トラックにぼくがのり13:30出発。天竜川に沿って北上。<sup>15:30</sup>途中、水窪町の「田楽の里」に寄る。守屋千鶴さんが両手を挙げて迎え、庭先では熊谷道子さんが手打ちうどんを茹でている。



田楽の里内都 14



中では中谷夕菊さんと竹中礼子さんがご馳走を並べていた。ぼくたちが飯田に向かうというので、遅めの昼食を用意してくれたのだ。ぼくの好きなポテサラ、カボチャの煮物、モロコシインゲンのゴマ和え、ナスとミョウガの浅漬け、ピーマン、トマトなど昔乙女の作った野菜料理の数々。さらに4種(アズキあん、クリあん、黄粉、あんりゴマ)のおはぎ(ばたは)と手打ちうどんの大ご馳走。ぼくはそのすべてをたべ、うどんのおかわりまでした。日頃の食生活の食は(夏は野菜炒め、冬は鍋の「ばっかり食)の為せる業だ。

食後、舟屋千づるさんと夫君の岩次さん(足神神社の宮司で、「西浦田楽」の能頭)が先頭に立ち、案内してくださった。

草木(くさぎ)トンネルをぬけ、兵越(ひょうこし)峠で静岡から長野県に入る。この峠では昔から静岡(水窪みくぼ)と長野(南信濃村)の人々が年に一度綱引きをする。勝った方が境界を1メートル進めるという愉快なイベントだ。いま、ロシアのウクライナ侵攻で殺し合いが続き、台湾海峡では緊張が高まっているが、こういう平和的な解決がなぜできないのだろう。「万物の霊長」が聞いて呆れる。たまたまは、スボツだけにして。

伊那谷へ下る途中、ループをぬけて高い道路架橋の下をくぐる。ここは3年前、英ちやんと秋葉(あきは)街道を走ったとき、雨に降られ、長大な矢筈トンネルは自転車の走行不可と知って途方に暮れた。水窪に助けを求め、人間は千づるさんの車に、自転車は竹中礼子さんの軽トラックに乗せてもらって静岡に抜けたことを思い出す。

飯田市下久堅は千づるさんの故郷。ここで岩次さんにかわり千づるさんのお兄さんが案内に立った。おぼろげにしかあったが、やっと着いた。ありがとうございました。

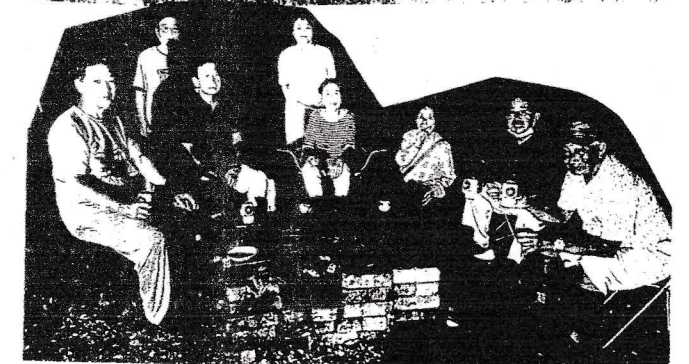
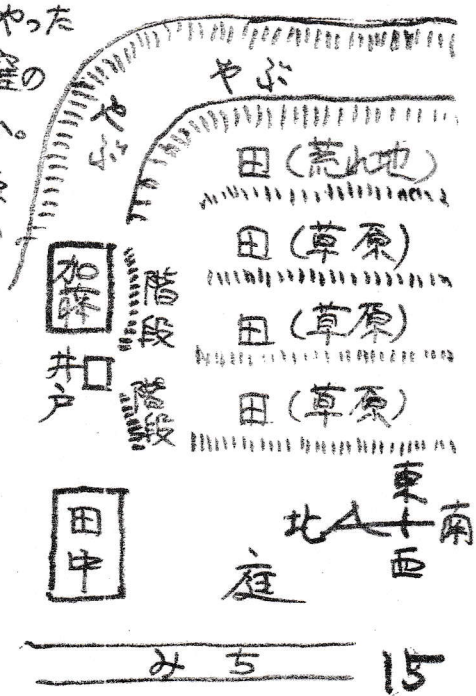
ここは加藤さんの山荘。夫君のお父さんが建てたそうだ。山荘の右側に、これと組むやぶが見える。道から少し下がった田中さん(加藤さんと仲よし)の庭に車を停めさせてもらい、一段上の山荘へ。階段で上がる途中、湧き水を貯めた井戸がある。

イチヨウの木の下に耐火レンガで設えられたカマドで、バーベキ2の夕食。キンメやホッケ

を焼いて一杯やったが、おぼろげに水窪のご馳走をいらない。

夜は正士、原田、山崎さんとぼくが山荘に、女性二人と若林さんは下の田中さんに分宿。

加藤さんの山荘はエコ



ロジーンに文を配り、電力の契約アンペアを最低にしているという。掃除機のスイッチを入れたとブレーカーが落ちて電灯が消えた。ほくも3.11以後は20アンペアの契約におとしたが、こんなことはない。さらに小さいのアンペアの契約か。何度も停まるたびにブレーカーの玉も引いて復元させる。

水は、下の井戸からポンプで上げている。それも、必要の都度スイッチを入れ、用が済んだらスイッチを切る。廊下の隅に風呂があるが、そんな訳で入ったのは山ちゃんだけ。

9月9日(金)。今日、天候が心配だった。降ってもやるつもりで雨具を用意した。深夜2時頃かなり降ったが、明けるとやんぞ予報よりもよくなった。

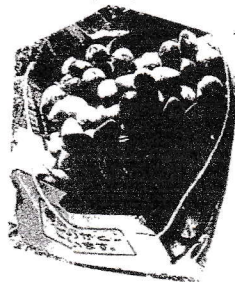
朝食を済まして時すぎ、勇を振るって目の前のやぶに切り込む。手強かった。小の木をフジなどのつるがあるが、いろいろの廃物の棄て場になっている。ふいにズボンと膝まで足が沈む。指ほどの太さのパイプでできた何かが出てくる。遮二無二といった感じで刈払い機をふりまわす。刈り進むと、かなり太いスギの倒木が現れた。



久米さんも加わり、思いのほか作業は進む。猫の手クラブはたくましい。

前ページの図で「荒れ地」と書いた最上部の棚田は水が溜まっている。一足いらない長靴をはいて入る。塵生したミヅソバがからみ、刈りにくい。刈を替えてもい楽になった。

森の親木からこぼれ落ちたクルミがあちこちに生え出し、伐り倒す。けこう奥をつけていて、康江さんも加わり拾い集める。ミカン箱一杯になった奥は、帰路、水窪に置いてきた。いつか、ご馳走になるだろう。



昼までに予定した作業を終え、余力を駆って一段上のやぶも整理した。下の家の田中昌勝・智子夫妻は、仲よく少し離れたところで薪を作っている。その薪は、焼津でカツオの焙煎をしているボランティアグループに提供するそうだ。

16時すぎ、正士さんの車と田中智子さんの車に分乗り、20分ほど走った飯田市営



の「ほ、湯アツク」へ。入浴料500円。規模が大きく、プールも併設されている。  
泉温39°C、PH10.2のアルカリ性の湯につかる。

夕食は、田中夫妻も一緒に近くの焼肉店へ。焼肉なんて、おのみ存命中以来だ。生ビールで牛、豚、マトンをいただく。肉をたべない久米さんは、野菜ばかり食べたそうだ。

宴途中で雷雨になる。田中さんに傘を借りて山荘に戻る。この日、エリザベス女王の死去を知る。70年間国民に尽くし愛された女王と安倍さんの違いを思う。



9月10日(生)、くもりのち晴。濃い朝霧、やがて晴れる。浜松に用事がある和藤いつみさんは早くに家を出、田中智子さんに見送られ往路を戻る。途中、兵越峠の手前で千づるさんから電話があり、池島地区の守屋さんのお宅へ寄る。2年前、山ちゃん和田楽の時に夕食をご馳走になったことがある。

治次さんとお二人に迎えられる。牛乳、バナナ、ゴーヤのスムージー？をいただく。冷たくさわやかでおいしかった。持参したクッキーを治次さんは「信州グルミだ」と言った。裏の畑には種々の野菜が育ち、サレ除けに飼われた山羊が2頭。もともと、役に立たなかったそうだが、軒にはタカキビ(コーラン)とトウモロコシの穂が吊るされている。山里の暮らしのゆたかさを思う。



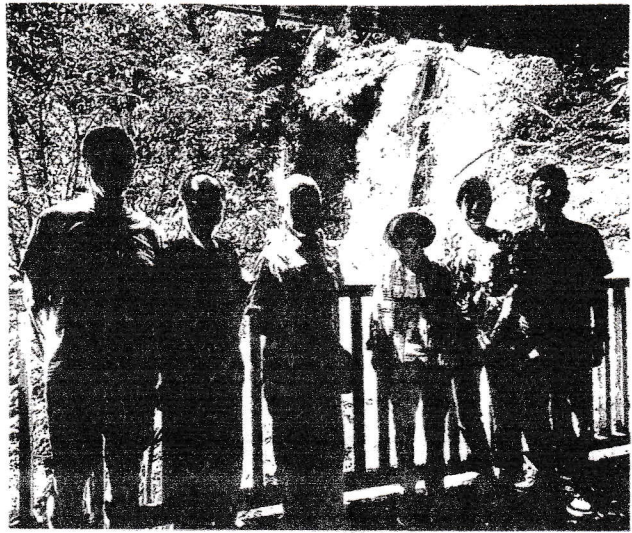
足神神社の宮司と大きくと堅苦しさを感じるが、治次さんは気さくな方だ。「縄文の由来を尋ねられ「パソコンもスマートフォンもだめな縄文人」と答えると、「私も同じアナログ人間」と笑っておられた。

いま、近くで掘削中の5kmに及ぶ道路トンネル。なんと四度も地鎮祭に呼ばれたそう。談合などのトラブルで元請けの企業が変わるたびに地鎮祭をするという。1kmも奥の現場に行き、紅白の幕が張り巡らされ白砂を敷きつめた上を一人で歩き、祈禱する。どんな気持ちだろうか。その道がいつ通じることやら。

お二人に挨拶をし、山を下る。

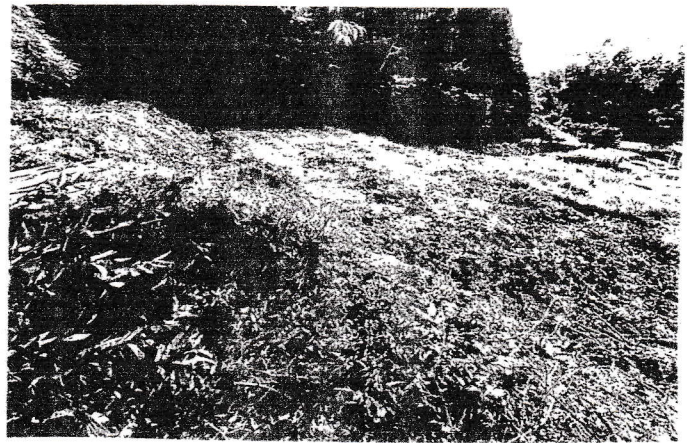
途中、旧龍山村の不動の滝に立ち寄る。滝の中段に橋がかかり、その下の滝見台まで187段の下りと登り。足が重いのが滝は荒々しく美事だった。

遅くなったので途中「ドラゴンマツ」の店で各々うどん、そば、カレーの昼食をとる。さらに、正士たちには行かず敷地駅に直行。給油のため先に出た若林さんも間一髪間に合い、正士、久米さんと共に見送ってもらい、帰途につく。



人物が思えないのもあるが、滝優先。

次回 10月27~29日。岡山の内田博文さんが参加の予定。賑やかになるう。



### ロシアは核を使うか

プーチン大統領は、核兵器の使用もほのめかしている。

ウクライナでは、早くから核兵器が使われた場合、どのように行動すべきか国民に説明している。すでにヨード剤や防護服が配布されている。

「備蓄もあるし、使い方は分かっている。勝利を目指しているので核兵器を恐れない」(兵士)

アメリカのバイデン大統領は、ロシアが核兵器を使う可能性について、

「彼は冗談を言っているのではない。キューバ危機以来の危険がある」

アメリカは、ロシアが核兵器を使った場合、ウクライナ領内にいるロシア軍と黒海艦隊を(通常兵器で)せん滅すると決めているようだ。

(10/7 BS-TBS「報道1930」)